

平成 24 年度文学研究科共同研究経費申請書

研究代表者 (申請者)氏名	堤 一昭	専門分野・ コース名	共生文明論	職名	准教授
研究課題名	東洋学者・石濱純太郎をめぐる学術ネットワークの研究				
研究目的					
〔研究の目的、その意義と予想される成果、新規科研費獲得に向けた準備状況などを記入してください。昨年度科研費を申請して不採択になった場合は、研究継続・再申請準備状況も記入してください。〕					
【研究の目的】					
<p>本研究は、平成 23 年度文学研究科共同研究「石濱文庫の学際的研究—大阪の東洋学から世界の東洋学へ—」の研究成果の上に立って、東洋学者・石濱純太郎（1888-1968）及びその収集資料をめぐる学際的かつ国際的な学術ネットワークを明らかにしようとするものである。</p> <p>昨年度の共同研究により明らかになった、「石濱文庫」（大阪大学・外国学図書館所蔵）中の特に学術史的な価値の高い資料群（書簡類、抜刷、拓本等）を重点的に調査・分析し、その成果を報告書として刊行するほか、外国学図書館等での資料展示を予定する。最終的には、大阪大学総合学術博物館での展覧会開催、貴重資料データベース化をめざし、そのための検討・準備作業を行う。</p>					
【研究の意義と予想される成果】					
<p>石濱純太郎は、大阪の漢学(泊園書院、重建懐徳堂)を出発点、活動の場としつつも、彼が師とした内藤湖南(1866-1942)ら第一世代が築いた日本の東洋学を引き継ぎ、大正期から昭和戦後期に発展させた第二世代の東洋学者の代表的な一人である(江上波夫編『東洋学の系譜・第二集』に評伝)。彼は、東洋学の最先端分野の研究を欧文文献も駆使して開拓するとともに、ロシアの東洋学者 N. ネフスキー(日本民俗学の研究で有名)との交流など、国内外の多くの研究者・研究団体との交流、膨大な資料収集でも知られた。町人学者と自他共に任じた彼をとりまくネットワークは、芸術家(画家・小出楯重、作曲家・信時潔、作家・藤澤桓夫)らも含み、学術にとどまらない同時代の文化史を反映するものでもある。彼から教えや資料提供を受けた、次世代の研究者が著名な成果を生んでいったことも知られている(西田龍雄の西夏文字解読、藤枝晃の敦煌学、大庭脩の日中文化交流史研究など)。</p> <p>石濱の資料収集は、『石濱文庫目録』(1979年)により4万冊にのぼる図書・雑誌の概要は知られ、一部の図書・資料は研究に用いられていた。しかし昨年度の共同研究により、未整理・整理途上の2万点余りの資料群(書簡類、抜刷、学会案内、書籍目録、拓本、写真等)にもメンバーが専門とする各分野の先端的研究に資する、価値が高く、優先して調査・分析すべきものが数多く含まれることが明らかになった。それらの資料の収集に至る石濱のネットワークを明らかにする学術的な本研究は、彼が活動した大正期から昭和戦後期にかけての東洋学など学術・文化史の変遷をたどるために不可欠の研究と資料を学界に提供することになる。さらに、学際的な性格を持つ本研究により、各分野にインパクトを与えるとともに、石濱文庫の価値を知らしめることにもなると予想される。</p>					
【研究継続及び外部資金申請にむけた準備状況】					
<p>昨年度の共同研究からの学際的な研究組織を維持し、メンバーが研究成果報告書で取りまとめた課題に引き続いて取り組むことができる。外国学図書館、総合学術博物館からの協力についても従前から了解を得ている。加えて「泊園文庫」「内藤文庫」を所蔵する関西大学のアジア文化研究センターで、研究代表者が研究例会で「石濱文庫」の研究状況を報告する(平成24年6月)など協力関係が既にできており、研究情報の交換が可能となっている。</p> <p>上記のように、本研究は最終的に展覧会開催、貴重資料データベース化へつなげる研究成果をめざしている。それにむけて、外部資金(平成25年度三島海雲記念財団・学術研究奨励金)、今後の学振・研究成果公開促進費申請にむけての検討を行う。</p>					

研究計画・方法

[研究計画・方法を具体的かつ詳細に記述してください。また、研究経費（4ページに内訳を記載）の必要性・妥当性を明確にしてください。]

石濱文庫資料の中で、特に学術史研究の上で価値の高い幾つかの資料群（書簡類、抜刷、学会案内、書籍目録、拓本、写真および一部の図書・雑誌）に焦点を絞り、各自の専門に応じたテーマにより、分担調査・分析する。その作業の状況・成果は、昨年同様に適時の会合、データ交換により共有しつつ作業を進める。最終的には全員の成果を比較検討・総合し、調査報告書を刊行する。

◆各自の専門分野と今回の共同研究での主なテーマ（調査・分析対象）は、次のとおりである。

堤 一昭（東洋史学）

石濱純太郎をめぐる東洋学者ネットワークの学術史への位置づけと収集資料の研究価値（書簡類、抜刷、学会案内、拓本・写真資料等の調査・分析）

※外国学図書館での展示にむけての調査・連絡・準備を担当する。

飯塚一幸（日本近代史）

石濱文庫資料を通して見た大正期から昭和戦中期における学問と政治体制の関係（書簡類、学会案内、書籍目録等の調査・分析）

湯浅邦弘（中国哲学）

重建懐徳堂をめぐる大阪の学術・社会と石濱純太郎の関係（重建懐徳堂に関わる学会案内、和漢典籍、書簡類の調査・分析）

高橋文治（中国文学）

中国学資料収集をめぐる石濱純太郎のネットワーク（書簡類、拓本、和漢典籍等の調査・分析）

藤岡 穰（東洋美術史）

石濱文庫の龍門石窟関係資料収集をめぐる時代背景（造像記拓本、石窟旧観写真の調査・分析）

橋爪節也（日本近代美術史。総合学術博物館）

石濱純太郎をめぐる大阪出身の芸術家のネットワーク（画家・小出楯重、作曲家・信時潔関係資料（書簡類、パンフレット）等の調査・分析）

生田美智子（日露交流史・名誉教授）

ロシア・ソ連東洋学と石濱純太郎ら日本の学界との交流（書簡類、抜刷、洋書の調査・分析）

合山林太郎（日本漢文学）

石濱文庫資料からみた近世近代の関西の漢文学（和漢典籍・石濱あて書簡の調査・分析）

廣川和花（日本近代史・適塾記念センター）

石濱文庫の近代資料と石濱純太郎の学問形成との関わりについての方法論的研究（書簡類、学会案内、書籍目録ほかの調査・分析）

松永和浩（日本中世史・総合学術博物館）

石濱文庫資料のアーカイブ化・展示方法についての研究（未整理資料全般の調査・分析）

◆箕面キャンパスの外国学図書館・貴重書庫内の石濱文庫での実地調査は、合同（複数回。含む大学院生）及び単独で行う。適時の会合予定は研究スケジュール参照。

【研究経費の使途】※研究経費の内訳参照

- ① 消耗品費：画像データを含めた調査記録の保存用文具・メディアは、本調査研究期間内で整理可能な範囲の分量にとどめた。保管収納用物品は昨年度に調達済み。
- ② 国内旅費は本研究に関わる資料を有する近畿圏のいくつかの図書館へのもの。
- ③ 実地調査及び調査報告書編集への協力者へのアルバイト謝金を計上した。
- ④ 図表を含むと予想される報告書の刊行費と発送費は、今後の関連研究者・期間との資料交換のためのもの。外国学図書館、及び②の調査先での資料複写費を計上した。

研究組織

氏名	年齢	所属機関・部局・職名	専門分野
堤 一昭	*	文学研究科・准教授	東洋史学
飯塚 一幸	*	文学研究科・教授	日本近代史
湯浅 邦弘	*	文学研究科・教授	中国哲学
高橋 文治	*	文学研究科・教授	中国文学
藤岡 穰	*	文学研究科・教授	東洋美術史
橋爪 節也	*	総合学術博物館・教授	近代日本美術史
生田 美智子	*	名誉教授（言語文化研究科）	日露交流史
合山 林太郎	*	文学研究科・講師	日本漢文学
廣川 和花	*	適塾記念センター・准教授	日本近代史・アーカイブズ学
松永 和浩	*	総合学術博物館・助教	日本中世史・博物館学

※1行目に研究代表者（申請者）を記入してください。

※本学関係者については所属機関（「大阪大学」）は省略してください。

研究スケジュール

時期	内容
7月	調査方針・分担の確認。メンバー各自の予備調査開始。
8月	各自の分担テーマの現地調査開始（於外国学図書館・貴重書庫。※以下、各月同様）
9月	外部資金申請計画に向けての打ち合わせ。
10月	研究会（全体会合：調査状況と今後の調査方針の打ち合わせ）。図書館展示準備開始。
11月	外国学図書館での石濱文庫資料展示(予定)。関大泊園講座での情報交換。
12月	研究会（全体会合：調査報告書の内容大綱の検討。三島海雲記念財団学術研究奨励金応募に向けての打ち合わせ）
1月	調査報告書の編集方針の決定。
2月	調査報告書の編集・作成作業開始。
3月	調査報告書の編集～刊行、発送作業。4月以降の調査・研究方針の検討と決定。
4月	（新計画に基づく調査開始）

外部資金応募・獲得状況（最近5年間のものまたは応募予定のもの）

外部資金の名称 と研究期間	研究課題名・ 研究代表者氏名	全研究期間の 総研究費 (単位：千円)	採 否	本申請との関連性
基盤研究（B） （一般） （H24～H26）	大阪の漢学から世界の 東洋学へ—石濱純太郎 をめぐる近代学術史の 研究—・堤一昭	9,947	否	平成 26 年度に総合学術博物館での展 覧会、4 種類の目録、叢書刊行および 資料保存・公開を目指した総合調査・ 研究であり、本申請は、その計画の一 部に相当する。※種目・分科などについ ては検討中。
三島海運記念 財団・平成 25 年度学術研究 奨励金(人文科 学部門)(平成 25年7月～平成 26年6月)	(仮) 大正・昭和前期に おける東洋学研究の国 際化—羽田亨と石濱純 太郎—	700	応 募 予 定	本申請の成果の一部(石濱をめぐる東 洋学の学術史)を発展させるもの。石濱 の東洋学研究は、石濱自身が大阪外国 語学校で教えを受けた羽田亨（京都帝 国大学教授）が行った研究プロジェク ト・施策との関わりが深い。当財団設 立者と羽田との交友も著名である。